

令和5年度事業計画

令和4年度を振り返ってみると、例年全国各地で発生するゲリラ豪雨や台風等による大きな自然災害は発生しませんでした。年末のクリスマス寒波では筒賀・猪股地区の県道五日市筒賀線で湿った大雪により電柱が倒れて水源地の電源が喪失したことで、グループホーム大銀杏のある筒賀市エリアで3日間程度断水が発生しました。

このため、職員がポリタンクでグループホーム大銀杏に飲料水を運んだり、あすなろ園で入浴してもらうため送迎を行ったりするなどの対応を迫られましたが、特に大きな混乱はありませんでした。

一方で、令和4年度も1年を通じて新型コロナウイルス感染症に振り回されました。

国内で最初の新型コロナウイルス感染者が発生して3年余りが経過しました。全国の医療・介護・福祉施設においてクラスター等が多く発生するなか、当法人施設では昨年10月までの2年半余りにわたり利用者、職員とも1人の陽性者も出ていませんでしたが、昨年11月8日、利用者から初めてとなる陽性者が判明、同日には職員からも初めての陽性者が判明し、初めてレベル5の厳重な感染対策を取ることにになりました。

この利用者は、若干の発熱はあるもののほぼ無症状の状態のため、園内の宿泊室に隔離して専用の防護服等による感染対策をとった職員によるサービスを継続した結果、7日目には抗原検査キットによる検査で陰性に転移し、8日目の朝にも連続陰性を確認後元の居室に戻しました。また、陽性だった職員も同じく7日・8日目の抗原検査で連続して陰性が確認できたため8日目から職務に復帰しました。一方で、残念ながら2人とも感染経路は全く不明のままとなっています。

適切な初期対応の効果によるものか、その後施設内では他の利用者や職員にも、また職員家族にも感染が広がることなく、本園内での感染は終息したものと判断し、11月20日には感染対策レベルを一段階緩和してレベル4に移行し、その後も県内、広島市内及び町内の新規感染者の状況を見ながら適宜感染対策レベルを変更しており、現在はレベル2としていますが、少し下げ止まり傾向にあることは気がかりなところです。

今月13日からマスク着用については個人の判断に委ねられることになりましたが、本園が多く利用者が一緒に生活する入所施設という特性から、今後もマスク・手洗い・三密防止といった基本的な感染対策については、施設内では緩和するものの、施設外で第三者と接触する場面等では当面継続していく予定です。

過去の県指導監査で指摘を受けていた当施設の課題として看護職員の確保がありましたが、昨年6月に正看資格を持つ看護師を採用することができました。利用者の通院時付添い、服薬管理、健康相談など多様な場面で活動してもらっており、利用者にとってはもちろん、職員にとっても心強く、特に職員が2人だけの夜勤者にとっては、夜間利用者の急病時などの際、すぐさまホットラインで相談や指示を受けることが出来る環境ができたことが大きな安心につながっています。

このような背景の中、社会福祉法人親心会及び戸河内あすなろ園が当地域の中でどのような目標をもって運営をしていくのか、今後より明確にするとともに共生社会の実現を目指して努力していきます。

1. 施設運営について

◎戸河内あすなろ園の現状

- ◆定 員 施設入所支援 定員 50 名
- 生活介護 定員 50 名（令和 4 年 4 月 1 日変更）
- ◆利用状況 施設入所利用者数 実員 40 名（令和 5 年 3 月 1 日現在）
- 生活介護利用者 38 名（長期入院者 2 名）

◎グループホーム大銀杏の現状

- ◆定 員 8 名
- ◆利用状況 6 名（令和 5 年 3 月 1 日現在）

◎令和 5 年度利用者確保見込

現在、戸河内あすなろ園、グループホーム大銀杏とも上記のとおり定員割れとなっています。経営面からも令和 5 年度には次のとおり新たな利用者確保をめざします。

- ◆戸河内あすなろ園 新規 5 名以上
- ◆グループホーム大銀杏 新規 1 名以上

なお、3 月 20 日に開催した入所調整委員会で本園に入所依頼が届いている 4 名について審査を行い、全員の入所受入れ可能との結果でした。順調にいけば 4 月以降 4 名の新規入所者を確保できる予定です。

施設運営の面では、令和 4 年度から就労継続支援 B 型サービスを廃止し、生活介護の定員を施設入所と同じ 50 人に変更しサービスを提供しています。

職員にとっては利用者対応が統一できるなど利用者処遇メリットが生まれるとともに障害福祉サービス給付費の一定の増加も見込めることから経営メリットも期待できると考えています。

②原油価格上昇高騰や物価高騰対策について

ここ数年来の原油価格上昇に、昨年 2 月のロシアのウクライナ進攻により世界的にエネルギー関連価格の高騰とそれに伴う原材料費や食料品が高騰しています。

令和 4 年度から戸河内あすなろ園利用者の光熱費（共益費）を月 500 円度から値上げするとともに、各居室で個人使用する電気製品の使用料の負担をお願いすることとし、残る 2 施設（グループホーム大銀杏、ユニバーサルリビング・やまゆり寮）についても、共益費と各居室の電気料を値上げしましたが、電気料金や食料品等については今後も更なる値上げが予想されていることから、照明設備の LED 化等を含めた施設全体の省エネの取り組みを加速させる必要があります。

一方で、昨年末に町において制度創設された原油価格・物価高騰医療福祉事業者応援補助金と食材費高騰対策支援金は、当法人において令和 4 年度中に物価高騰により実質負担増となった経費の約 8 割をカバーする大きな支援となりましたので、令和 5 年度においても是非こうした支援制度を実施いただきたいと思います。

2. 日中活動等について

戸河内あすなろ園の日中活動は、令和 4 年度から生活介護一本になりました。毎月の活動日としては、22 日～23 日／月（月の日数－8 日）となっています。

◆生活介護の活動内容

趣味的な活動 軽スポーツ、創作活動、手芸、塗り絵、清掃作業

生産的な活動 農作業、清掃作業、草刈作業、リサイクル品回収作業

上記に加え、従来主として就労継続支援B型の活動内容のうち、廃棄物選別作業、自動車部品製作作業、草刈等一般作業や労務提供作業にも継続して取り組みます。

◆作業所の変更について

複数の職員退職により上本郷のあすなろ作業所への車両送迎対応が新年度から困難になると予想されます。このため、新年度からあすなろグラウンドに設置している第2事務所を作業所として使用することとし、現作業所は文書保管庫として使用することとします。これに伴い、利用者送迎に係る運転業務がなくなり、作業指導担当職員の範囲が広がり柔軟な対応が可能になると期待しています。

◆工賃確保・支給について

地域の中で自立するためには、生産活動に継続的に従事することが重要な要素で、新たな作業開拓を進めて行く必要がありますが、指導する職員の相次ぐ退職や募集しても応募がない状況が続いており、このため新たな作業開拓は困難となり、現行作業の維持確保を最優先とした取組みを進めざるを得ない現状にあります。

全般的には障害者が報酬を得られる作業は少なく、特に生活介護の活動の場合は、収益より経費が多く工賃支給まで至らないという実情もありますが、自身の作業の成果が目に見えるように、可能な限り工賃支給という形で反映していきます。令和4年度からスタートした3グループに分けた実験的工賃支給を継続して取り組みます。

3. 施設入所支援について

主として施設の夜間の活動について支援（入浴、排せつ、食事などの介護、生活等に関する相談及び助言等）を行います。

- ・12月28日～1月3日を除く毎日（正月休みを除く年中無休）
- ・入浴サービス（月・水・金曜日）※夏季は前記曜日以外にシャワー浴も可

4. 年間行事計画について

令和4年度から生活介護利用者一本になったため、施設全体のレクリエーションが可能になりました。

令和5年度は下記の行事を計画しています。なお、引き続きコロナウィルス感染症拡大防止のため、各行事の実施可否はその時々の様子を見ながら判断・決定をします。

- ・4月 買物支援
- ・6月 バスハイク(安芸の宮島) 2回に分けて実施
- ・7月 買物支援
- ・9月2日 ガーデンパーティー
- ・10～11月 クラブ外出(映画・カラオケ・温泉・釣り 選択)
- ・11月11日 五サー市（家族会バザー）
- ・12月23日 クリスマス会
- ・1月4日 初詣
- 14日 とんど

◎家族会の参加要請は、行事が活性化し利用者の生活の満足度向上につながるため、引き続き新型コロナの感染状況を勘案して可否を判断します。

5. ボランティアの受け入れについて

地域に開かれた施設になるため、その一貫としてボランティアの受け入れを積極的に進めていきたいと思いますが、コロナ禍の現状では困難な状況が続いています。

今後状況を見ながら対応していきますが、地元土居地区において本年3月から「お互いさん活動」というボランティア活動をスタートされ、ユニバーサルリビング・やまゆり寮の80歳代の男性入居者が毎月第2・4月曜日の午後の約1時間あまり、「お話しボランティア」を利用開始されています。今後この地元ボランティア団体を窓口に具体的な受け入れの検討作業に入りたいと思います。

6. 施設・設備の改修計画について

戸河内あすなろ園の開設から20年近く経過し、当初授産施設でスタートし比較的障害程度も軽く若年層が多かった利用者也、徐々に年齢を重ね高齢化が進んでいます。

令和4年度から生活介護サービスのみとなったこともあり、自立歩行が難しい利用者の新規入所や排せつに課題のある利用者も増えています。

施設・設備の経年劣化だけでなく利用者の変化も考慮しながら、予算の制約もありますが、複数年による設備更新や修繕を検討していきます。

令和5年度は、主に次のような施設・設備の改修を計画しています。

◇女子トイレのシャワー室個室化

◇男女様式トイレの温水シャワートイレ化（1台ずつ）

◇男子洋式トイレ3箇所到手摺り設置

◇利用者居室の床をカーペットからクッションフロアに変更 ⇒ 4室/年

◇利用者居室照明をLEDに順次変更 ⇒ 3台/年

◇利用者居室用エアコンの更新【未更新分】⇒ 3台/年

◇居室ベッドの更新 ⇒ 2台/年

◇侵入・脱園防止のためフェンス未設置箇所にフェンス設置 ⇒ 長さ25m、扉2箇所

7. グループホーム大銀杏（共同生活援助）について

主として利用者の夜間生活活動について支援を行っており、現在6名（男女3名ずつ）が入居しています。（利用定員8名）

日中活動は、外部の就労継続B型・就労継続A型事業所を利用しており、朝食、夕食等はグループホームの世話人が提供しているほか、土・日曜日の昼食については自炊とし、自立の支援も行っています。

なお、1月から筒賀の中筒賀地域の一般事業所（新和ゴム）で勤務していた男性利用者1名が、フルタイム就労のため加計の附地地域の一般事業所（日基リース）へ職場を変更しバス通勤を開始することになったことから、よりバス便の利便性が高いユニバーサルリビング・やまゆり寮に転居しました。

一方、生活介護の日中活動で新和ゴム作業に従事していた自立能力の高い60歳代の女性利用者が、約1か月の大銀杏への体験入所と新たな就労継続B型事業所（クローバータウン）活動を経て、2月からグループホーム大銀杏で穏やかに自立した生活を開始しました。今後も町内を中心に就労可能な事業所の確保・連携強化など図り、グループホーム利用者数を増やしていきたいと思っています。

8. 施設の防災対策について

法人が運営する戸河内あすなろ園、グループホーム大銀杏、ユニバーサルリビングやまゆり寮の3施設とも「非常災害対策計画」、「避難確保計画」の策定を終えています。

これに加え戸河内あすなろ園とグループホーム大銀杏では、年間2回の消防避難訓練(通報・避難・消火)を実施しています。このうち、県の指導監査で実施するよう指摘を受けていた夜間避難訓練については、昨年9月2日の夜間、実際に近い環境下での訓練とするため、夜勤職員2名のみで通報、声かけ、避難誘導の訓練を実施しました。

夜間職員が不在となるグループホーム大銀杏、ユニバーサルリビングやまゆり寮についても、令和5年度も必要な消防訓練を実施するとともに、避難確保計画に定めている災害種別(洪水・土砂災害)ごとの避難訓練を実施しますが、特に地域と連携した避難の仕方、場所などコロナ禍での避難のあり方については課題も多いため、安芸太田町とも連携を取りながら、効果の高い訓練を模索していきます。

9. 安芸太田町ユニバーサルリビングの運営について

安芸太田町ユニバーサルリビング・やまゆり寮は、平成18年の完成後17年が経過しています。完成当初から指定管理者として運営してきましたが、経年による修繕の必要部分が多数出現してきました。指定管理者の負担の上限は10万円になりましたので、大きな修繕や交換作業は設置者である町の対応となります。

昨年から居室エアコンの不具合が多発していますが、ほとんどが経年によるもので、かつ10万円を超える更新費用となるため、引き続き町に対応をお願いしていきます。

入居者数は現在6名で、徐々に入居率は高くなっていますが、まだ空室が3部屋ありますので、今後も積極的に入居者募集活動を行っていきます。

なお、新年度には更新時期が来ていた各居室の電気子メーターを町において交換されるとともに、入居者の経費(電気料金)負担軽減のため居室照明器具を町において全室LED化を実施されますが、当法人が経費負担している共用部分の照明器具LED化についても、早期に更新していただくよう設置者である町に要望していきます。

同じく更新時期が到来していた水道の子メーターは、昨年9月に町において全て交換工事が完了しています。